

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中 報告日 2019年7月23日

派遣決定番号

## 地域情報化アドバイザー制度活用報告書(1日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	玉名市	代表者名	藏原 隆浩
担当者部署	産業経済部	連絡先電話番号	0968-73-2222
担当者役職		担当者氏名	
住所	865-0025 熊本県玉名市290-1		
連絡先E-mail			

#### 1-2. 推薦団体(「区分」が「協会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	今回の検討会を行う上で問題となっていた部分について、新たな視点でのアドバイスを受けた。特に「財源」については、あえて企業の実証実験の場として提供することでクリアできることや、ベンチャーや大手企業を巻き込んだオープンイノベーションの場として課題を外部から解決してもらう方法があることなどが大変勉強になった。また、情報社会での正しい補助金の使い方やデジタルスキームの確立の重要性、他にも現在の観光客のニーズなどについての説明があり、当初ざっくりとしていた「西廻りルート」の運営について、課題解決へ向けての方向性が見えてきたように思える。
アドバイザーへの要望事項	主旨に賛同してくれる企業とのつながりが重要となってくるため、入ってくれそうな企業の紹介など、仲介をしていただくと大変助かります。

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2019年7月10日	13時00分	17時00分	10	230
3-2. 派遣場所	会場名	長崎県島原市役所		最寄駅	島原駅
	所在地	長崎県島原市上の町537			
	最寄駅からの交通手段	車			

### 4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	主に職員、観光関連団体	15人

#### 5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実績に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	本事業の最大の問題点は、良くも悪くも広域連携(県境を越えた連携)である。特に①母体が大きくなりすぎることによって話が進まない(特に、県レベルの介入があった場合が顕著)②多くの自治体に関わる中で財源をどうするか③「西廻りルート自体の内容」をどうするか3点が大きな課題である。特に、財源利用の手段として最初に思いつく、国の交付金や補助金の利用については交付期間も限られており、申請や報告などの業務に時間がかかることや、その事務をどの自治体でやるのかなど問題がある。また、負担金についても必ず自治体の財政課協議や議会承認を得て確保できるものになるため、こちらも労力がかかる。この部分をどのようにクリアするか。また、魅力あるルートとはどのようなものなのか。広域連携のための会議は、それぞれが遠方のため中々集まること出来ない。この部分をどう解決するかが課題である。
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	今回、アドバイスを受けて以下のことが解決できた。 ①事業の方向性 ②財源の確保に関すること
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	●地方創生の本質について 昔の東京一極集中時代はネット社会ではない時代の考え方。ネット社会となり必要な情報は東京にいても入手ができるようになったため、地方の発展の可能性はどの地域にもある。ただし、大前提として地方創生=PC、スマホは必須という認識が必要(デジタル社会の形成が地方創生の大前提) ●補助金、交付金の本来の使い方、それらに頼らない手法について 補助金・交付金といった期間が決まっている財源では、本来「モノを作る」ことはするべきではなく、「仕組み作り」に全力を注ぐべき。理想は補助期間で「スキーム」を作り上げ、補助期間終了と同時にアウトソーシングすることが重要。そもそも、補助金や交付金は申請や報告に多大な労力がかかりすぎるため財源としてはオススメできない。それよりもお金を持っている企業やベンチャーなどをいかに巻き込むかを考えることが重要。 ●オープンイノベーションについて 地域の課題解決の一番の近道は「外部から見た意見」であること。よって、課題解決は外の頭のいい人の頭脳をいかに借りることができるかが重要。必ずしも会議の場に来てもらう必要はなく、SNS等で頭脳だけ借りるだけでよい。また、企業やベンチャーは地域課題と自社が目指すものが類似していることも多く、オープンイノベーションの場とすることでお互いがWIN-WINとなる効果が期待できることもある。
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	今回、アドバイスを受けて、本検討会の方向性は以下になった。 ①まずは玉名市・島原市のローカル×ローカルによる越境連携からはじめる →大規模な母体はスピード感がないため、少ない自治体による連携からはじめた方がよいという結論となった。 ②財源は「実証実験の場」として提供することで確保 →自治体主導で行うと財源は自らで何とかしなければならないため、今回の「西廻り」に関しては動態分析調査は終わっているため、それを踏まえてインバウンド観光客にサービスを提供しているような企業の研究(実証実験の場)として話を進める。なぜ玉名市で?という部分については今回の「ローカル×ローカル連携と越境連携」という強みがあるため、乗ってくれる企業も多いのではとの見解。 ③事業の内容 ルートを作るというより、企業に知恵を出させて課題解決に取り組む。さらに企業が研究している観光サービス等があれば、その効果を実証するために有明海沿岸地域を提供する。というやり方に固まった。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ①事業に係る計画書等を策定できた
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	改善されなかった内容 ①企業への交渉をどうするか ②今後の進め方(いつまでに何をやるか?など)

アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 今回、地域課題や不安要素の提示した上で、解決案について具体的に示してもらい、参加者全体としてその意見に対し前向きな検討ができたため。アドバイザーに対しての満足度は高いものと判断できたため。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿		

**6. 地域情報化アドバイザー支援の様子**  
 今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

